

統計理論

t 検定による有意差判定

t 検定のまとめ

番号：

氏名：

&lt; 養護のまとめ &gt;

分散 (variance).....  $s^2$  で表される ( 偏差の平方平均 )標準偏差 (standard deviation).....  $s$  で表される ( 分散の平方根 )

正規分布 (normal distribution)..... 左右対称の釣鐘形の分布。

データが多いと正規分布の形になると考えられている。( だから、統計上の推計や検定が可能となる )

統計的には、5%未満の確率であれば「有意差がある」と判定する。

統計の証明のしかた

「背理法」という考え方

何かを証明するためには、その逆の仮説を提起し、その仮説を否定することで本来の仮説を証明する方法

前回の例

- 1 : 「A・B 高校生の睡眠時間に差がない」( この仮説を " 帰無仮説 " という ) とする。
- 2 : 「正 ( or 負 ) の方向で有意な差がある」( この仮説を " 対立仮説 " という ) かを確認する。
- 3 : 有意水準 5 % 以上の差がある 帰無仮説を棄却できる ( 正しい )  
有意水準 5 % 以上の差がない 帰無仮説を棄却できない ( 正しくない )

演習の続き

&lt; 裏面あり &gt;

&lt; 授業でわかったこと &gt;

&lt; 理解できなかったこと &gt;